

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	間質性肺炎急性増悪の再燃例の臨床的検討
研究責任者	聖隷浜松病院 呼吸器内科 中村 秀範
研究実施体制	研究責任施設 聖隷浜松病院 呼吸器内科
研究期間	2019年 12月 1日 ~ 2024年 11月 30日
対象者	2005年1月から2018年12月までの間に聖隷浜松病院呼吸器内科に通院または入院した患者のうち、間質性肺炎急性増悪をきたした症例。
研究の意義・目的	間質性肺炎急性増悪とは、特発性肺線維症 (idiopathic pulmonary fibrosis: IPF) 等の慢性線維性間質性肺炎の経過中に両肺野に新たな肺の浸潤影の出現とともに急速な呼吸不全の進行がみられる予後不良な病態として認識されている (Collard HR, et al. AJRCCM 2016; 194: 265-275.)。ステロイドパルス療法や人工呼吸器管理など集学的治療によって救命できたとしても患者の QOL は低下し (Koyama K, et al. Intern Med 2017; 56: 2837-43.)、さらに、ステロイド減量などに伴い再燃する場合もある。しかしながら、間質性肺炎急性増悪の再燃に関する研究は極めて少なく、再燃例の臨床像や予後に関しては未だ不明である。そこで、本研究では、間質性肺炎急性増悪の再燃例の臨床像や予後について明らかにすることを目的とする。
研究の方法	研究デザイン 後方視的観察研究 対象患者 (急性増悪の初回および再燃時) について、診療録から以下の項目の調査を行う。 年齢、性別、喫煙歴、BMI、診断、重症度、GAP (Gender-Age-Physiology) スコア、血液検査 (PaO <sub>2</sub> , KL-6, SP-D)、肺機能 (FVC, DLco)、BAL、治療内容 (安定期および急性増悪時)、予後、等
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 呼吸器内科 (氏名) 河野 雅人 TEL: 053-474-2222 (代表) 呼吸器内科外来 9:00~17:00 平日